



多様な性(性的マイノリティ)に配慮した (震災時)避難所運営のポイント

参考資料 5



性的マイノリティとは？

同性が好きな人や自分の性別に違和感を覚える人などのこと。最近では以下のアルファベットの頭文字をとって「LGBTQ」とも呼ばれています。

L:レズビアン(女性同性愛者)

G:ゲイ(男性同性愛者)

B:バイセクシュアル(両性愛者)

T:トランスジェンダー (体と心の性別に
違和感を感じる人など)

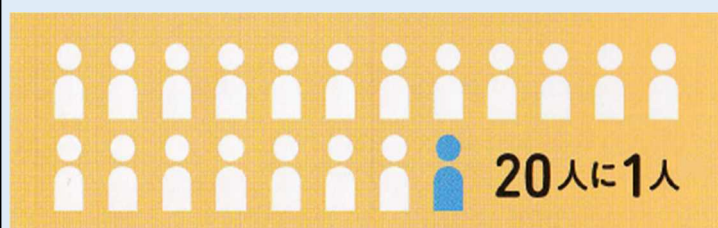
Q:クエスチョニング (自分のセクシュアリティが
わからない、迷っている人など)

この他に、恋愛感情を持たないアセクシュアル(無性愛)など、色々なセクシュアリティがあり、それらを総称して性的マイノリティ(LGBTQ+)と呼ぶこともあります。

どのくらいいるの？

性的マイノリティ(LGBTQ+)の方は、見た目では分からないことが多く、身近には感じられないかもしれませんが、人口の3～5%いるといわれています。

標準的な体育館(約200人)が避難所となった場合、約10人の割合となります。



皆さんの避難所の中にも、性的マイノリティ(LGBTQ+)の避難者の方がいるかもしれないということを常に意識しましょう。

詳細は下記の運営のポイントをご覧ください。

～(震災時)避難所運営のポイント～

①性別の記載について

避難者情報を収集する際には、性別の要否を検討し、必要最小限とする。

②避難者の呼び方

性別で敬称を分けたり、活動内容に応じて「性別」の指定は控える。

③仮設施設の設置

仮設のトイレやシャワー室等を設置する際には、男性・女性用に加えて、できる限り性別関係なく、だれもが使えるスペースを設置する。

④入浴施設について

入浴施設は、できる限り、一人ずつ使える時間帯を設ける。

⑤支援物資等の受け取り

生理用品・下着など、男女別の物資を受け取りにくい人に配慮し、ボランティアなどを通じて個別に受け取れる仕組みを検討する。

自分が性的マイノリティ(LGBTQ+)の当事者であることを他者に知らせる(カミングアウトする)かどうかは、個々人の選択です。カミングアウトした本人の承諾なく、性的指向や性自認を他の人に漏らされることは深く傷つくことです。情報共有が必要な場合は、伝えていい範囲を必ず本人に確認しましょう。性的マイノリティ(LGBTQ+)の人でもそうでない人も(どのような性的指向、性自認の人でも)安心、安全に過ごせるような避難所運営を行いましょう。

お問い合わせ先

避難所運営について

市長室危機管理課 自主防災係

046-822-9620

多様な性(性的マイノリティ)について

市長室人権・ダイバーシティ推進課 人権係

046-822-8219